

【資料2の別紙】

# 酪農教育ファーム活動20年の節目の取組に係る 検討の経過と具体的な取組内容について

平成30年3月23日

平成30年度第1回酪農教育ファーム推進委員会

一般社団法人 **中央酪農会議**

# 「酪農教育ファーム活動20年の節目の取組に係る検討会議」の設置

## 【酪農教育ファーム推進委員会(平成29年3月24日)で確認した事項】

- (1) 平成30年度に、本会議が酪農教育ファーム活動に本格的に取り組んで20年の節目を迎えることを踏まえた取組等について、酪農関係者及び教育関係者(日本酪農教育ファーム研究会で想定)で検討を行う。
- (2) 平成30年度に開催する「夏の研究集会※」の場の活用も想定。  
 ※夏の研究集会:「酪農教育ファーム研究会」と共催で、酪農関係者と教育関係者が集まり、酪農教育ファーム活動について研究発表する場として平成23年度より毎年開催。

上記を踏まえ、以下の通り「酪農教育ファーム活動20年の節目の取組に係る検討会議(以下「検討会議」)」を設置。

### 1. 「検討会議」の位置付け

- (1) 目的  
 平成30年度に、本会議が酪農教育ファーム活動に本格的に取り組んで20年の節目を迎えることを踏まえた取組について 教育関係者、酪農家(酪農教育ファームファシリテーター)、酪農関係者それぞれの立場から意見をいただく。
- (2) 意見をいただく項目  
 ①20年の節目を踏まえた 取組の目的  
 ②上記目的に沿った 具体的な取組内容

### 2. 参集者

所 属・役 職	氏 名	備 考
1 日本酪農教育ファーム研究会 【東京都教育庁指導部教育開発課東京教師養成塾】	会長 【教授】 國分 重隆	現・酪農教育ファーム推進委員、初代・酪農教育ファーム専門委員、酪農教育ファーム認証制度検討委員
2 日本体育大学 児童スポーツ教育学部	教授 角屋 重樹	現・酪農教育ファーム推進委員、初代・酪農教育ファーム推進委員、酪農教育ファーム認証制度検討委員 日本酪農教育ファーム研究会会員
3 清水牧場(愛知県)【認証牧場】	清水 ほづみ	現・酪農教育ファーム推進委員、第一期酪農教育ファーム認証牧場、地域交流牧場全国連絡会会長(検討会議設置時) 酪農教育ファームファシリテーター、日本酪農教育ファーム研究会会員
4 石田牧場(神奈川県)【認証牧場】	石田 陽一	地域交流牧場全国連絡会クラブユース事業リーダー 酪農教育ファームファシリテーター、日本酪農教育ファーム研究会会員
5 ホクレン農業協同組合連合会	酪農部 佐々木 真弓	北海道地域推進委員会事務局
6 公益社団法人中央畜産会	副会長 姫田 尚	元・農林水産省、初代・酪農教育ファーム推進委員、酪農教育ファーム認証制度検討委員
7 一般社団法人中央酪農会議	事務局長 内橋 政敏	

### 3. 検討の際の留意点

- (1) 酪農教育ファーム活動は、指定団体・酪農家・教育関係者等が連携して行う、酪農産業ならではの価値ある社会貢献であることを踏まえ、活動の持つ価値と役割を外に向けてPRする方策について検討する。
- (2) 活動の実践者のモチベーションを高め、活動がさらに発展するよう検討を行う。

# ■「第1回検討会議」協議事項（平成29年8月1日 中央酪農会議・会議室）

## 1. 酪農教育ファーム活動20年の節目の取組に係る検討会議について

会議の位置付け等について確認。

## 2. 酪農及び教育を巡る情勢と酪農教育ファーム活動の変遷、活動の効果の検証

組織的な活動の始まり、歴史、認証牧場・ファシリテーター数の推移、活動実態調査結果、活動の効果検証等について確認。

### 【主な意見】

- 食育基本法は酪農教育ファームをベースに作られた。食育基本法を作ったのが酪農教育ファームだということをプライドを持って評価する必要がある。
- 酪農家が拠出したお金で酪農教育ファーム活動が行われていて、酪農そのものに価値を見出し、それを子ども達に見せようというのが酪農教育ファーム活動の基本的なところ。そこが酪農教育ファームで1番大事な部分ではないか。
- 持続性を持った活動にしていくために、活動を実践していない身内(酪農家)からもこの活動が酪農産業にとって大事なことだと評価されるように、節目の取組の中で位置づけていきたい。

## 3. 酪農教育ファーム活動20年の節目の取組の具体的内容について

20年の節目の取組の「目的」を確認、取組内容について意見交換。

### 【主な意見】

- (関係者を参集しての)記念行事は必須。記念行事を中心に据えるべき。
- 記念行事には、これまで活動をしてきた酪農家・教育関係者と、これからの活動を担う次世代の人を参集すべき。人が集まるような魅力ある内容を検討すべき。
- 今ある組織を活用すべき(地域交流牧場全国連絡会への協力依頼等)。
- 教育関係者は日本酪農教育ファーム研究会の会員に拘らず、酪農家と共に活動する先生なら良いのではないか。
- 中央での1回の記念行事だけでなく、各地域でも話し合う場を持てればよい。
- 今までの集大成として、記念誌はやるべき。内容としては、外へのPRの要素、活動の価値・効果の要素が必要。
- 記念誌は、活動をやっていない酪農家を活動に引き込むためにも、これまでの成果を集約して活動の意義を再認識してもらえるようなものにすべき。
- 文章だけだと人はなかなか読まないので、映像DVDもセットにしてはどうか。活動のPRにも使える。

# ■ <参考> 交牧連・指定団体担当者・推進委員長の意見

## 1. 8/10交牧連三役会での意見

- 記念集会は単なるセレモニーで終わらないように。皆が参加したいと思える工夫を。
- 取り組みは全国で活動する酪農家の顔が見えるものにすべき。
- 記念行事は、交牧連の理事会と連続で行ってはどうか。(2日連続で)

## 2. 8/30交牧連理事会での意見

- (関東の)酪農家にとって夏場は忙しく、お盆時期は交通機関が混むし高い。冬場も二番草の収穫等があつて忙しい。秋がいい。
- 酪農教育ファーム(推進委員会)と交牧連が別のものだというは理解しているが、酪農教育ファーム活動を行っている人と交牧連会員はほぼリンクしている。交牧連の行事と酪農教育ファームの記念行事と両方に出席するのは大変。
- 交牧連の全国研修会(毎年秋頃開催。H30年度は九州地域で開催予定)とセットでの開催はどうか。
- H31年に交牧連の20周年を迎えるので、その記念行事とセットでの開催はどうか。

## 3. 9/28指定団体担当者会議での意見

- 記念行事に地域推進委員会も呼ぶのであれば、記念行事の日程は、できるだけ早く決めてほしい。

## 4. 10/12酪農教育ファーム推進委員会 委員長との打ち合わせ会議での意見

- 酪農教育ファーム活動が特別な酪農家の活動ではなく酪農業界全体の財産となるように、活動を行っていない酪農家からも認められるように、活動の価値や役割を総括・整理して、外に向かってPRする機会とすべき。
- 現場に根付いた地域の活動を尊重してほしい。実践している酪農家の顔が見えるように。
- 教育関係者は夏は忙しい。記念行事は秋がいいのではないか。モチベーションを高め、将来に向かう示唆となるような行事にすべき。パネルディスカッションを含むシンポジウムのような形式とし、それを集約する形で記念誌を作成してはどうか。
- 記念行事の際には、今までのメンバーだけでなく、幅広い人々に呼び掛けてはどうか。(栄養士、栄養教諭、全国PTA協議会等)

# ■「第2回検討会議」協議事項（平成29年11月8日 中央酪農会議・会議室）

## 1. 第1回検討会議の協議事項とその後の協議状況について

- (1) 8/1開催の第1回検討会議の協議事項を確認。
- (2) 参考として、8/10交牧連三役会、8/30交牧連理事会、9/29指定団体担当者会議、10/12羽豆推進委員長との打ち合わせ会議で出た意見を報告。

### 【主な意見】

- 交牧連が平成31年度に設立20周年を迎えるが、その記念行事とは一緒にしない方がよい。
- 交牧連は会員組織としてどう扱うかの話。酪農教育ファーム活動は、活動を行っていない酪農家はもとより、消費者に対しても広がるような取組にすべき。

## 2. 酪農教育ファーム活動20年の節目の取組の具体的な内容について

具体的な内容について意見交換。

ここまでの議論等を踏まえて、  
次ページ以降の具体的な取組内容を作成

# I. 酪農教育ファーム活動20年の節目の取組の概要

## **取組の目的**

1. 酪農教育ファーム活動(以下「活動」という)の原点、歴史、現状を確認する。
2. 活動の価値と役割を、活動の実践者で共有するとともに、次世代につなげる。
3. 活動は、指定団体・酪農家・教育関係者等が連携して行う、酪農産業ならではの価値ある社会貢献であることを踏まえ、国が取り組む食育推進に係る動きも意識しつつ、活動の価値と役割を、認証を取得していない酪農家を含め広くPRする。
4. これらを踏まえ、活動の実践者のモチベーションを高め、さらに発展するための活動のあり方を追求する。

上記の目的を踏まえ、平成30年度中に以下の取組を実施する。

### **1. 「記念行事」の開催**

活動の関係者及び報道関係者等を参集し、「記念行事」を開催する。

### **2. 「記念誌」の作成・配布**

酪農教育ファームについて組織的な活動をまとめた「記念誌」を作成し、関係者及び報道関係者等に配布する。  
なお、酪農教育ファーム活動を映像化したDVDも併せて制作し、記念誌とセットで配布する。

### **3. 取組内容の展開**

本会議の機関紙等に記念誌及び記念行事の取組内容を掲載するとともに、業界紙に同内容の記事広告を掲出し、活動の価値と役割を業界内外に広く広報する。

## Ⅱ. 記念行事（シンポジウム）①

1. 主催:酪農教育ファーム推進委員会、一般社団法人中央酪農会議

2. 後援・協力:

(1)後援:農林水産省・文部科学省(予定)

(2)協力:地域交流牧場全国連絡会・日本酪農教育ファーム研究会

3. タイトル:シンポジウム「酪農教育ファーム20年を節目に～酪農を通して食・しごと・いのちの学びを未来につなぐ～」

4. 開催日時・場所:

平成30年9月22日(土)13:00～17:00 (懇親会17:30～19:30 ※立食形式、会費制)

TKPガーデンシティPREMIUM京橋【シンポジウム】ホール22A【懇親会】ホール22B

(東京都中央区京橋2-2-1京橋エドグラン22階)

5. 参集者:

200人程度(ファシリテーター、教育関係者、指定団体、地域推進委員会、関係団体、行政、報道関係者、その他)

6. プログラム : P7の通り

7. その他検討事項:

(1)当日の様様を、インターネットにてリアルタイム動画配信

(2)認証牧場・ファシリテーターの写真、子ども(体験者)からの絵・作文・手紙・詩、酪農教育ファームに関連する書籍等を集め、会場内に展示ブースを設置

(3)参加者で持ち寄った乳製品等の試食コーナーを設置

## Ⅱ. 記念行事（シンポジウム）②

### 8. 参加費／参加者旅費

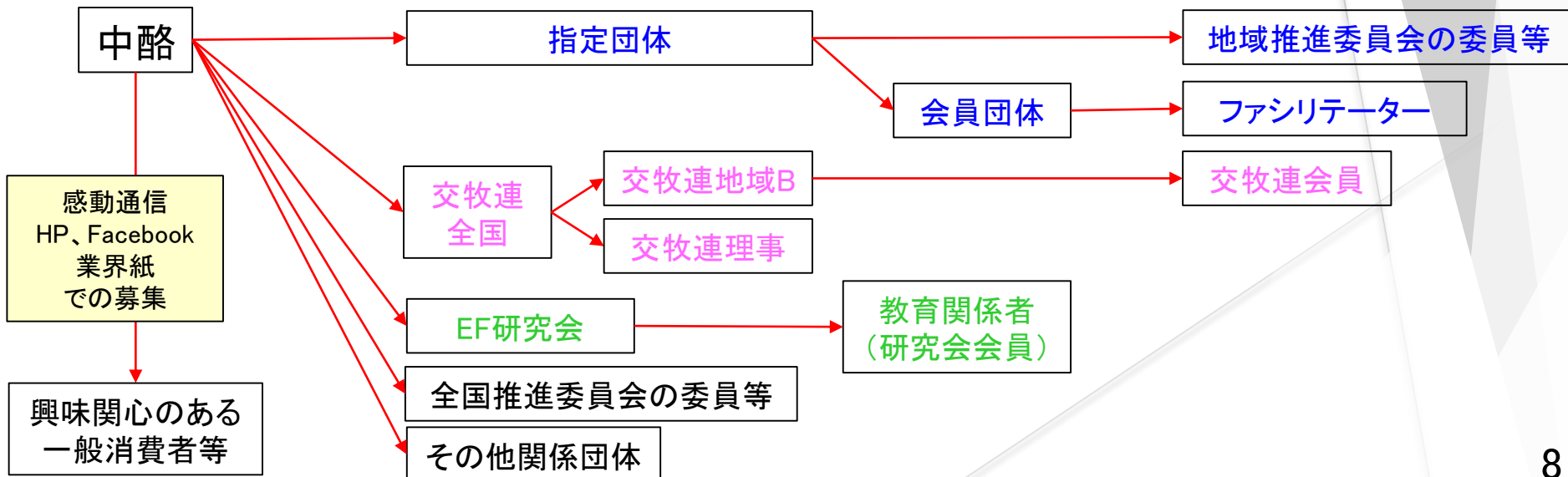
- (1) 参加費: 無料
- (2) 参加者旅費(交通費・宿泊費): 原則自己負担

### 9. 参加者の募集方法

- (1) 全国推進委員会等の委員(過去の委員を含む)及び関係団体: 中酪から直接案内
- (2) 地域推進委員会等の委員: 指定団体を通じて案内
- (3) 指定団体の会員団体: 指定団体を通じて案内
- (4) 酪農家(ファシリテーター): 指定団体(⇒指定団体の会員団体)を通じて案内
- (5) 地域交流牧場全国連絡会の会員: 交牧連を通じて案内
- (6) 教育関係者(日本酪農教育ファーム研究会の会員): 同研究会を通じて案内
- (7) その他: 感動通信、HP、facebook、業界紙への事前告知広告等を通じて募集

### 10. その他

平成30年9月29日(日)(シンポジウムの翌日)に、地域交流牧場全国連絡会の理事会を開催予定。





# Ⅱ. 記念行事（シンポジウム）③プログラム（H30.3.23時点）

開始時間	分	内容		登壇者（予定）	目的
※司会・全体進行：中央酪農会議				■内橋政敏（中酪・事務局長）	
13:00	30	開会 挨拶	■主催者挨拶①（全国推進委員長）	■羽豆成二（推進委員長）	PR
			■主催者挨拶②（中央酪農会議）	■迫田潔（中酪・専務理事）	
			■来賓挨拶①（農林水産省）	■未定	
			■来賓挨拶②（文部科学省）	■未定	
13:30	15	オリエンテーション	■組織的な酪農教育ファーム活動のはじまり、あゆみ現状等について、スライドを用いて説明。	■内橋政敏（中酪・事務局長）	原点・歴史・現状の確認
13:45	20	実践発表①	■複数人による事例発表×2組 ※酪農家＋教育関係者（＋過去に酪農体験をした子ども等）	1組目【九州】 ■酪農家：大藪真由美（熊本県・オオヤブデリーファーム） ■教育関係者：藤田まり子（熊本市立力合小学校・校長）	①原点・歴史・現状の確認 ②実践者のモチベーション向上
14:05	20	実践発表②		2組目：検討中	
14:25	20	実践発表③		■酪農家（単独）による実践発表×1人	
14:45	15	休憩			
15:00	100	パネル ディスカッション	■テーマ：酪農教育ファームの未来 ■登壇者：6名 ファシリテーター2名、活動を実践する教育関係者1名、関係団体1名、行政（文科省）、消費者代表（ジャーナリスト等） ■冒頭、活動を実践しない登壇者（行政、ジャーナリスト）より、第三者的立場で見た活動の価値・役割について話してもらう。（5分程度×2人）	■進行：松原明子（オフィスラ・ポート） ■酪農家（ベテラン）：廣瀬文彦（広瀬牧場）【北海道】 ■酪農家（若手）：清水一将（愛知県・清水牧場）【東海】 ■教育関係者：検討中 ■消費者代表：小谷あゆみ（ジャーナリスト） ■関係団体：姫田尚（中央畜産会） ■行政：未定（文部科学省）	①活動の価値・役割の共有 ②実践者のモチベーション向上 ③活動のあり方の追求
16:40	10	総括（講評）	■登壇者：教育関係者（日本酪農教育ファーム研究会から1名）	■國分重隆（日本酪農教育ファーム研究会会長）	活動のあり方の追求
16:50	10	アンケート記入・事務連絡等			
17:00		閉会			
17:30	90	懇親会	■希望者のみ、立食形式、会費制 ■記念DVDの上映		

# Ⅲ. 記念誌

1. 発行: 酪農教育ファーム推進委員会、一般社団法人中央酪農会議

2. 発行時期: 記念行事終了後、速やかに作成 (映像DVDは先行して制作)

3. 冊子について:

(1) 体裁: A4・100ページ程度 ※機関紙「感動通信」の別冊として発行

(2) タイトル: 「酪農教育ファームを未来につなぐ～組織的な活動をはじめて20年のあゆみ～」

(3) 掲載内容:

① 前書き、祝辞、目次

② 組織的な活動と酪農教育ファーム推進委員会のあゆみ (設立までも含む)

③ 酪農教育ファーム関連データ (認証牧場・ファシリテーター数の推移、活動実態調査結果等)

④ 活動事例／教育的効果／学習視点の提案 (感動通信等、過去の素材を再編集。必要に応じて新規取材)

⑤ ファシリテーターの顔写真と一言コメント／子ども (体験者) からの絵・作文・手紙・詩等

※ シンポジウムの展示ブースと連動して募集。

【上記①～⑤までは、シンポジウムの開催前までに制作を進めておく】

⑥ 酪農教育ファーム活動のこれから (記念行事の内容をまとめる)

(4) 監修: 「酪農教育ファーム活動20年の節目の取組に係る検討会議」 参集者

4. 写真・コメント等の募集

(1) 募集内容

① ファシリテーターの顔写真 (できればデジタルデータ) とコメント「私にとっての酪農教育ファームを一言で表すと(10文字以内)」

② 子ども (体験者) からの絵・作文・手紙・詩等 (スキャンデータ、コピーもしくは原本)

※ 長期間の貸し出し可能であれば9/22シンポジウムにて展示。

(2) 依頼と回収のルート

① 依頼: 中酪⇒指定団体⇒(会員団体)⇒ファシリテーター

② 回収: ファシリテーター⇒(会員団体)⇒(指定団体)⇒中酪

## IV. 映像DVD

1. 収録時間：10分(～15分)程度

2. 収録内容：

下記①～③について、既存の映像資料、写真、画像等を編集し、ナレーションでまとめる（必要に応じて追加撮影）

①組織的な酪農教育ファーム活動と推進委員会のあゆみ

②様々な酪農教育ファーム活動の様子（牧場での受入、学校への出前授業、イベントでの一般消費者への活動等）

③実践者・体験者（子ども）の声

3. その他留意事項：

①冊子とセットで配布するとともに、記念行事での上映（休憩中、懇親会時等）、地域推進委員会や地域で酪農家が集まる研修会等での上映、学校及び教育関係者等に向けて活動のPRに活用すること等も想定。

②動画の全内容を本会議ホームページやYouTube等へ掲載する。

## V. 取組内容の展開

以下を通じて、酪農教育ファーム活動の価値と役割を、業界内外に広く広報する。

1. 本会議の機関紙等を活用した広報

ミルククラブ、感動通信、JDCニュース(メルマガ)、JDCニュースレター(メディア向け)等に、記念誌及び記念行事の取組内容を掲載する。

2. 業界紙(酪農関係、教育関係)を活用した広報

(1) 記念行事の開催前にプレスリリースを実施し、取組に関する事前及び事後の記事取り上げを狙う。

(2) 日本教育新聞に、記念行事の事前告知広告を掲載する。

(3) 日本農業新聞及び日本教育新聞に、記念行事の内容等を取りまとめた記事広告を掲出する。

3. その他検討事項

中央畜産会のグリーンチャンネル番組「がんばる！畜産！」で記念行事の取り上げを検討する等、連携して広報展開を行う。

# Ⅵ.今後のスケジュール

時期	シンポジウム	記念誌	
		冊子	映像DVD
H30. 3. 23	【酪農教育ファーム推進委員会】事業計画決定・報道関係者へのPR		
H30. 3. 31	「感動通信VOL.53」内での告知		
H30. 3月末～4月上旬	指定団体等へ開催案内文書の発出 参加者募集、当日の展示コーナーへの 展示物（作文、手紙、絵など）を 募集開始	指定団体を通じて、ファシリ テーターの写真とコメント等 を募集開始	
H30. 5月末	展示物の提出締切	写真・コメントの提出締切	
H30. 5月～7月上旬	業界紙へ事前告知広告を掲出 本会議機関紙等での告知		
H30. 7月末	参加者募集の締切		
H30. 8月末頃	参加者への最終案内		
H30. 9月中旬	報道関係者への最終プレスリリース		
H30. 9. 22（土）	開催		完成（記念行事内で上映）
10月～	記念行事の内容をとりまとめ ⇒ 冊子完成、「DVD付き記念誌」として印刷・配布		
	業界紙へ取組内容の事後記事広告を掲出 本会議機関紙等での取り上げ		